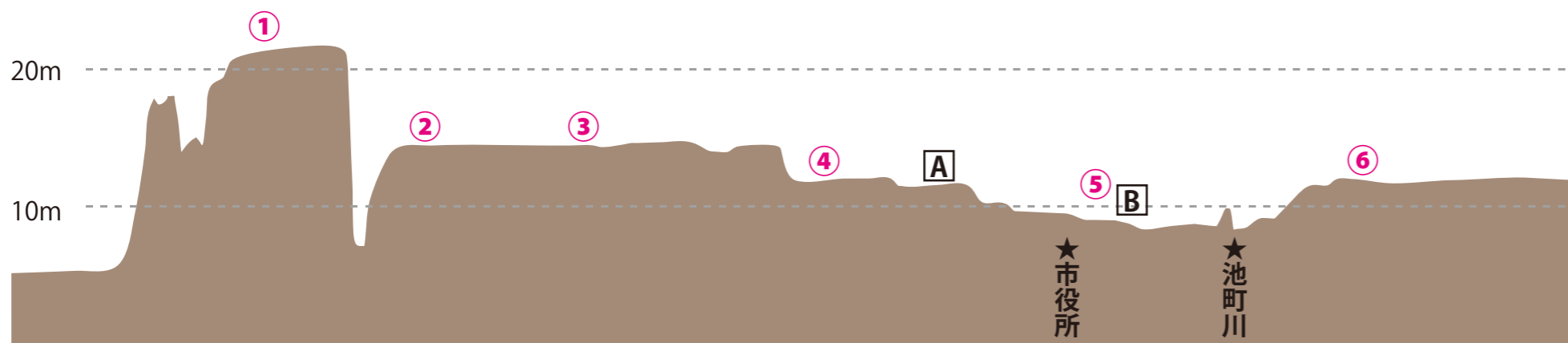


上・天保時代久留米城下町図(部分) / 下・地形断面略図



# 1 久留米城下町の成立と展開

## ・城下町の地形と配置

1621年、有馬豊氏の久留米入城に伴い、城下町も本格的に整備が開始されました。その都市計画を理解するためには、まず核となる久留米城の立地を知ることが肝要です。高低差が鍵となります。

## 第2回「にみた通りです。」

では、断面はどうでしょう。実際に地面を横から見るとはできませんが、本丸跡から注意して歩いてみると、緩やかに下っていくことに気づくのではないのでしょうか。豊氏は、この辺りで最も標高が高

クリックして読む

い丘陵上を本丸と定め、台地の縁辺までを久留米城の範囲としました。そして、外郭の南面に広がる谷部分を埋め立て整地して町屋とし、その周りの比較的標高の高い土地に武家屋敷を建設することにします。城と城下町は堀で明確に分けられ、外郭の南の大手口、東の櫛原口、南東の狩塚口、南西の京隈口の4か所が、城外との出入り口となりました。